

(証券コード 東証プライム：5957)



2024年12月期 決算説明会

NITTOSEIKO

Taking new steps forward together

■ 説明者

代表取締役社長

兼COO



あらが まこと
荒賀 誠

1. 2024年12月期決算サマリー

決算サマリー

セグメント別概況

2. 中期経営計画の取り組み状況

中期経営計画

Mission G-second 進捗状況

Growth#1 事業拡大戦略

Growth#2 環境戦略

Growth#3 人財戦略

Growth#4 財務戦略

3. 2025年12月期予想・計画

2025年12月期予想

成長投資

株主還元方針

4. 参考資料

資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

日東精工の経営の考え方

1. 2024年12月期決算サマリー

連結業績ハイライト

単位：百万円／％	FY2023 通期		FY2024 通期		前期比		FY2024 業績予想比（2024/11/13）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	44,744	100.0	47,069	100.0	2,325	5.2	48,200	△ 1,130	△ 2.3
売上総利益	10,183	22.8	11,240	23.9	1,057	10.4			
販売管理費	7,568	16.9	7,914	16.8	345	4.6			
営業利益	2,614	5.8	3,326	7.1	712	27.3	3,300	26	0.8
経常利益	2,835	6.3	3,573	7.6	738	26.0	3,500	73	2.1
税金等調整前当期純利益	2,830	6.3	3,442	7.3	611	21.6			
親会社株主に帰属する当期純利益	1,734	3.9	2,199	4.7	464	26.8	2,100	99	4.7
一株当たり当期純利益（円）	46.95		60.18				57.46		

決算のポイント

売上高

- 制御事業のエネルギー関連向け分析装置、欧米のPFAS規制に対応する分析装置、人手不足を背景にした自動車向け部品検査機、中国・東南アジアでファスナー事業のOA機器向け製品が好調。加えて、産機事業のねじ締め機の価格転嫁が進んだことから、前期比5.2%の増収。

営業利益

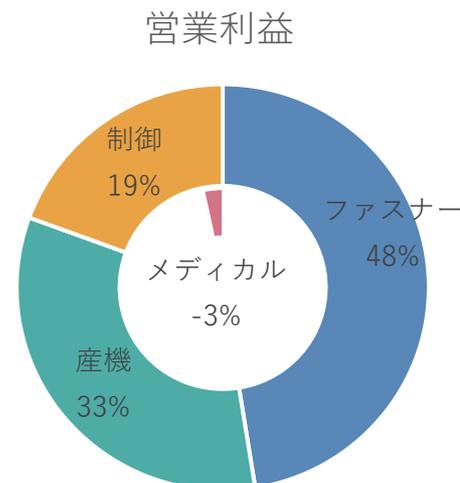
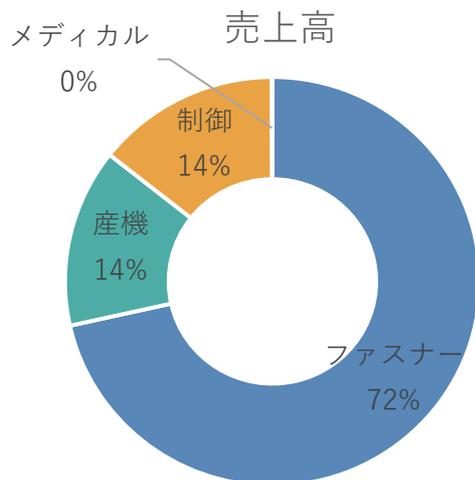
- 産機事業のねじ締め機の価格転嫁が進んだこと、高付加価値の分析装置の出荷が進んだことから、前期比27.3%の増益。

海外

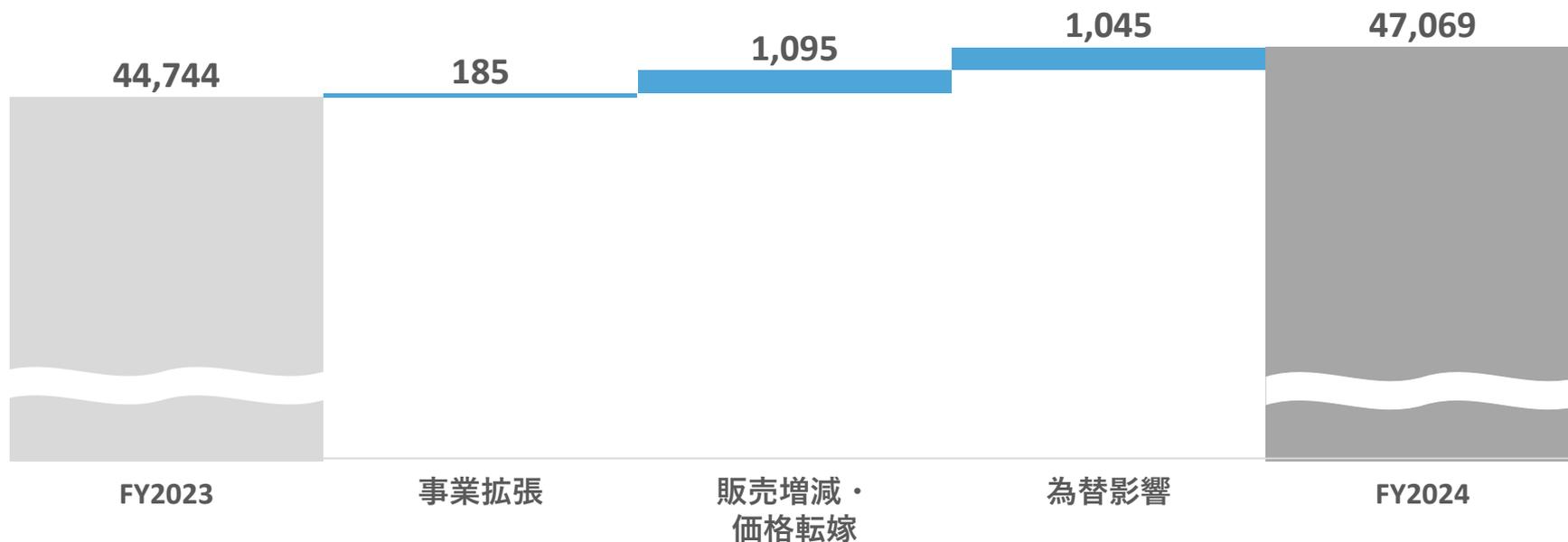
- 分析装置の販売が欧州拠点で好調だったことに加え、商流見直しにより中国でも分析装置の販売を開始し売上増加。中国・東南アジアでOA機器向けのファスナー製品も好調に推移し、円安による為替影響もあり売上高が増加。

セグメント別売上高・営業利益

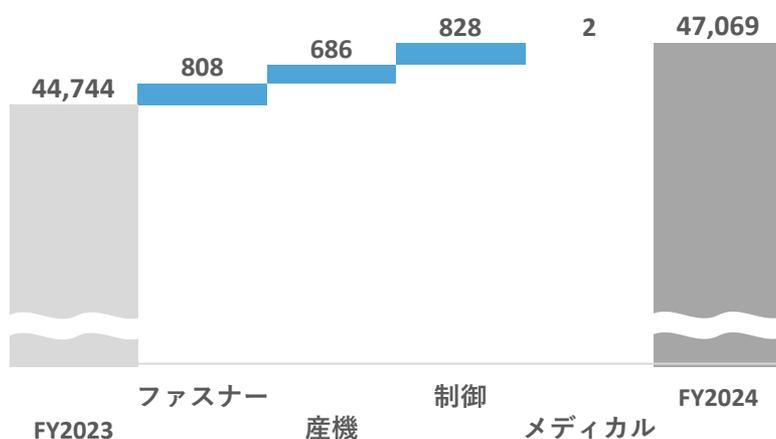
単位：百万円／%		FY2023	FY2024	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,855	33,664	808	2.5
	営業利益	1,625	1,636	10	0.7
	利益率	4.9	4.9		
産機事業	売上高	5,955	6,642	686	11.5
	営業利益	822	1,141	319	38.9
	利益率	13.8	17.2		
制御事業	売上高	5,915	6,743	828	14.0
	営業利益	278	669	390	140.4
	利益率	4.7	9.9		
メディカル事業	売上高	17	19	2	15.2
	営業利益	△ 112	△ 120	△ 8	-
	利益率	△ 654.4	△ 612.3		



(百万円)



セグメント別売上高増減 (百万円)



事業拡張

2023年4月に開設した日東精工アナリテックヨーロッパが貢献。

販売増減

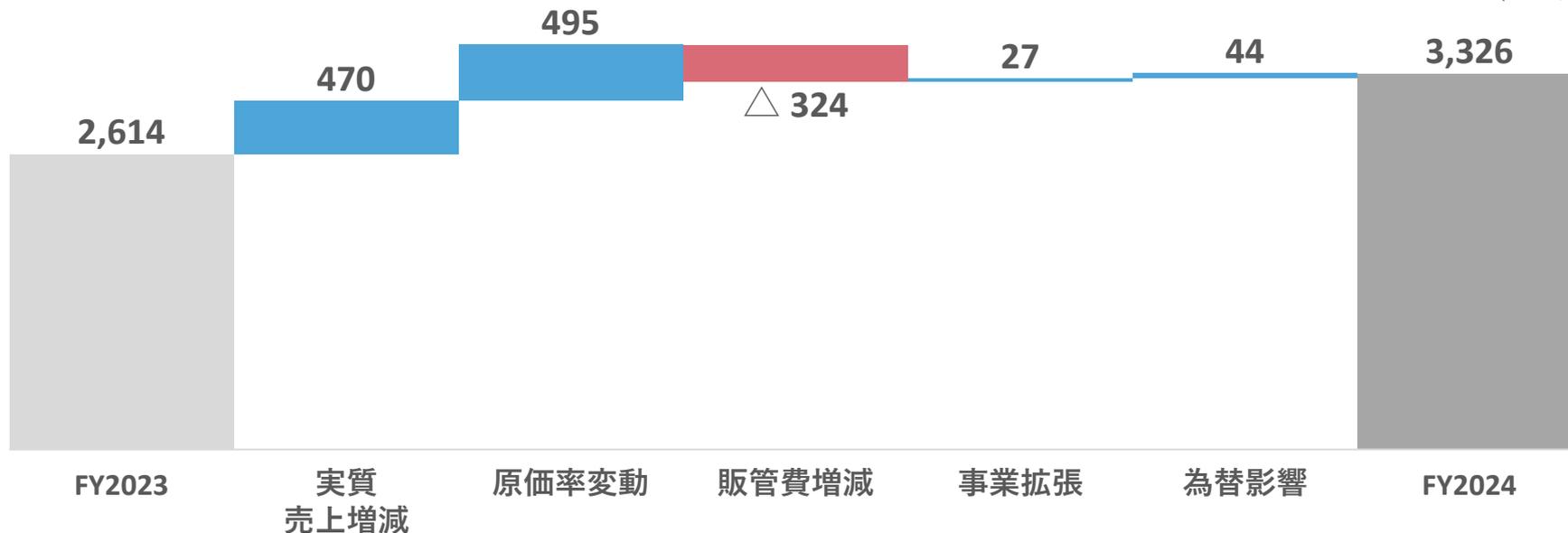
制御事業のエネルギー関連・環境分野向け分析装置、自動車向け部品検査機、ファスナー事業のOA機器向け製品が好調。

価格転嫁

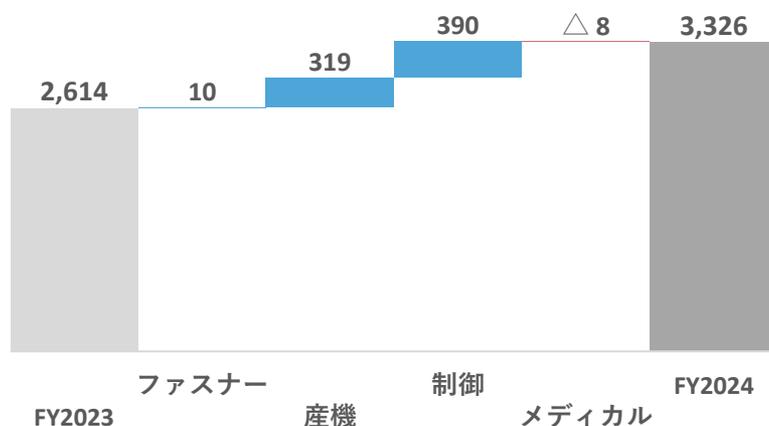
ねじ締め機関連の価格転嫁が進んだ。その他は引き続き交渉中。

営業利益 増減要因

(百万円)



セグメント別営業利益増減 (百万円)



**原価率
変動要因**

ねじ締め機関連の価格転嫁の効果が表れ原価率が改善。また、高付加価値の分析機器の出荷が進んだことも寄与。

**販管費
変動要因**

賃上げにより労務費が前期比約3.8% (約126百万円) 増加。

事業拡張

2023年4月に開設した日東精工アナリティックヨーロッパが貢献。

セグメント別概況 ファスナー事業



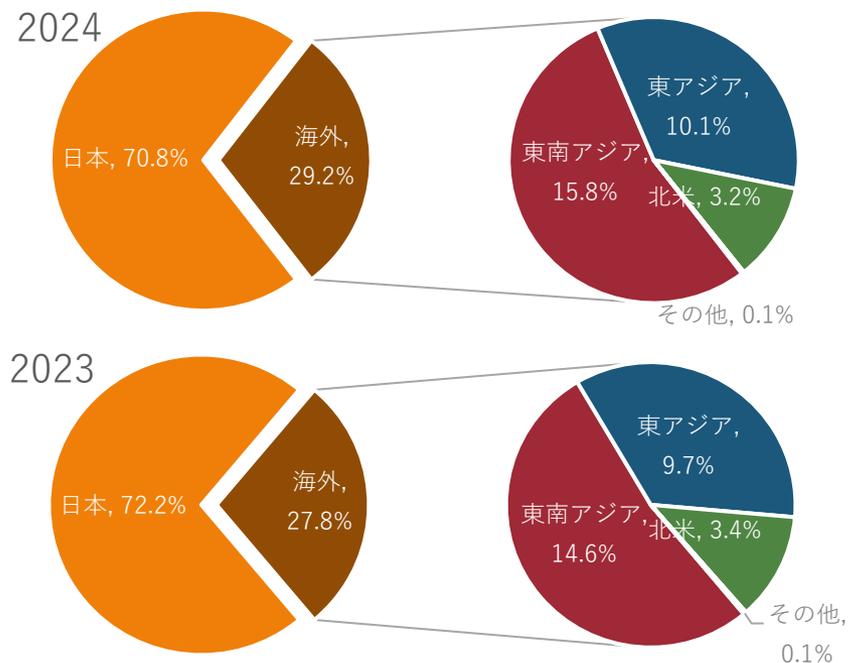
概況

- 売上高は、建設業界の計画遅延の影響を受けるも、主力の自動車のバッテリー向け需要、東南アジアでの家電・情報機器需要により、前期比で増収。
- 営業利益は、主材料の線材のほか副資材費・賃金・物流費などの上昇に対する価格転嫁の効果が4Q後半から徐々に表れ、前期比で微増。
- 11月に樹脂コーティングのゆるみ止めねじ「NCグリップ」、12月に頭部埋め込み型のクリンキングスタッドボルト「JOISTUD-FH」を発売。

業界別 (売上高)

単位：百万円／%	FY2023	FY2024	前期比	
	通期 金額	通期 金額	金額	増減率
売上高	32,855	33,664	808	2.5
自動車	13,052	13,259	206	1.6
住宅・建築	7,466	7,268	△198	△2.7
電機・電子部品	4,583	4,830	246	5.4
雑貨	2,140	2,085	△54	△2.6
IT・情報機器	1,254	1,745	490	39.1
精密機器	1,098	1,371	272	24.8
医療	289	302	12	4.4
その他	2,970	2,801	△168	△5.7
営業利益	1,625	1,636	10	0.7

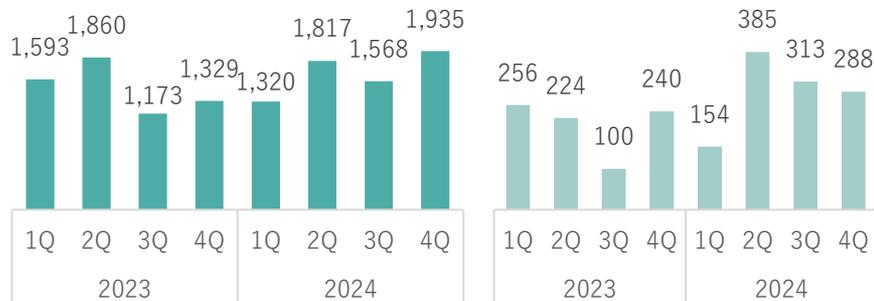
地域別 (売上高)



セグメント別概況 産機事業

百万円 売上高

百万円 営業利益



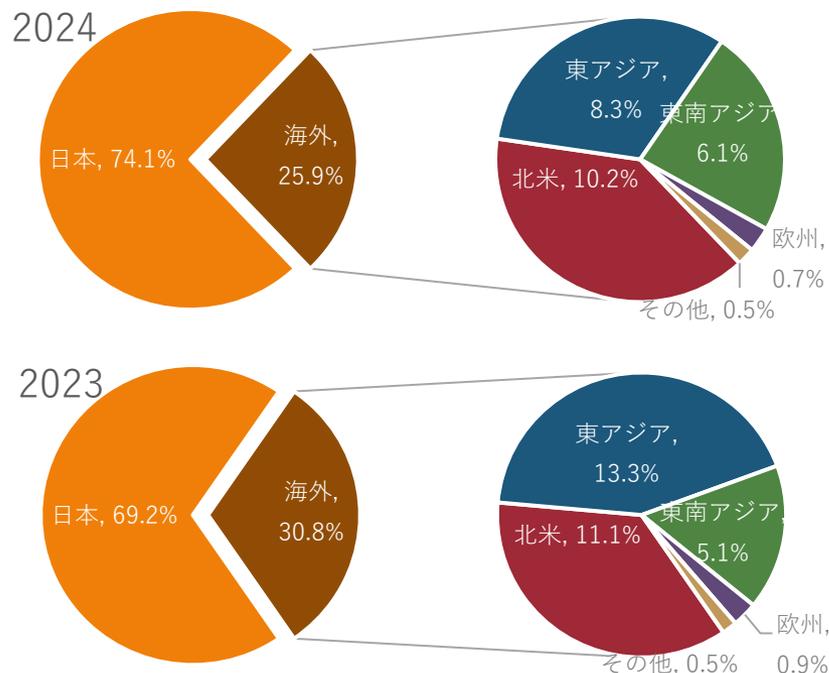
概況

- 売上高は、世界全体のEV販売の減速や大統領就任前の設備投資停滞の影響があるものの、主力の自動車業界で国内のねじ締め機需要が増加したこと、既存業界以外からも電動化需要、人手不足を背景にした自動化需要が高まったことから、前期比で増収。
- 営業利益は、ねじ締め機において2Qより価格転嫁が進み原価率が改善した影響で、前期比で増益。
- 8月に高精度・高機能NXドライバの低トルクモデルをリリース。

業界別（売上高）

単位：百万円／%	FY2023	FY2024	前期比	
	通期 金額	通期 金額	金額	増減率
売上高	5,955	6,642	686	11.5
自動車	3,410	3,626	215	6.3
電機・電子部品	1,026	1,036	10	1.0
エネルギー関連	199	218	18	9.0
住宅・建築	180	186	6	3.3
遊技機	212	156	△ 56	△ 26.3
IT・情報機器	178	125	△ 52	△ 29.2
雑貨	17	64	47	269.2
その他	728	1,227	498	68.3
営業利益	822	1,141	319	38.9

地域別（売上高）



セグメント別概況 制御事業



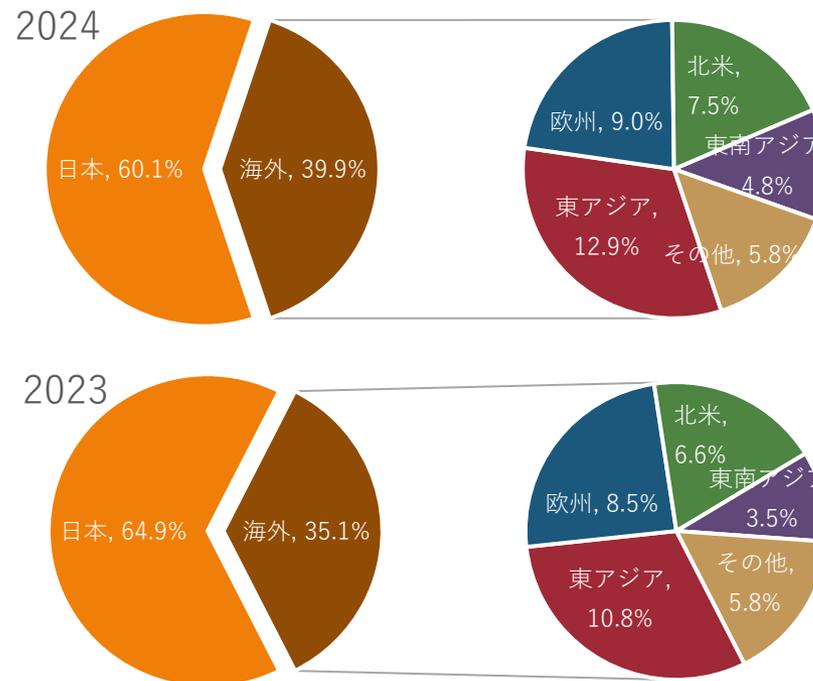
業界別（売上高）

単位：百万円／%	FY2023	FY2024	前期比	
	通期 金額	通期 金額	金額	増減率
売上高	5,915	6,743	828	14.0
化学・薬品	1,412	1,481	68	4.8
エネルギー関連	900	1,212	311	34.6
自動車	411	727	316	76.9
環境	268	649	381	142.3
電機・電子部品	414	334	△ 80	△ 19.3
住宅・建築	438	309	△ 129	△ 29.5
造船	306	294	△ 11	△ 3.9
医療	181	153	△ 28	△ 15.6
食品	91	149	57	63.0
その他	1,489	1,430	△ 58	△ 3.9
営業利益	278	669	390	140.4

概況

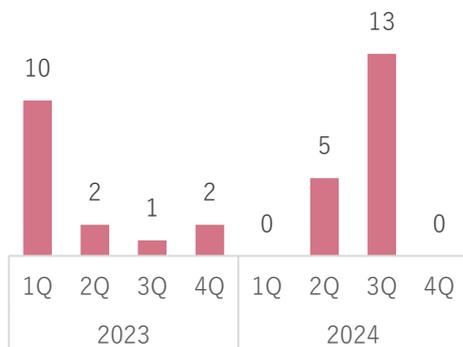
- 化学・薬品、エネルギー関連を中心に分析装置が好調。加えて、環境分野でPFAS規制を背景にした欧州での分析装置販売、自動車向け部品検査装置の大型受注により、前期比で増収増益。
- 新製品開発、有機溶剤リサイクル事業の共同開発に加え、原価のみえる化、加工部品の内製化・組立生産効率化、販売価格の改定などを進める。
- 3月に自動試料燃焼装置「AOF/AQF-5000H」を発売。

地域別（売上高）



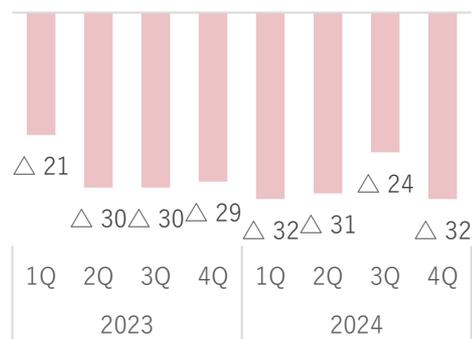
百万円

売上高



百万円

営業利益



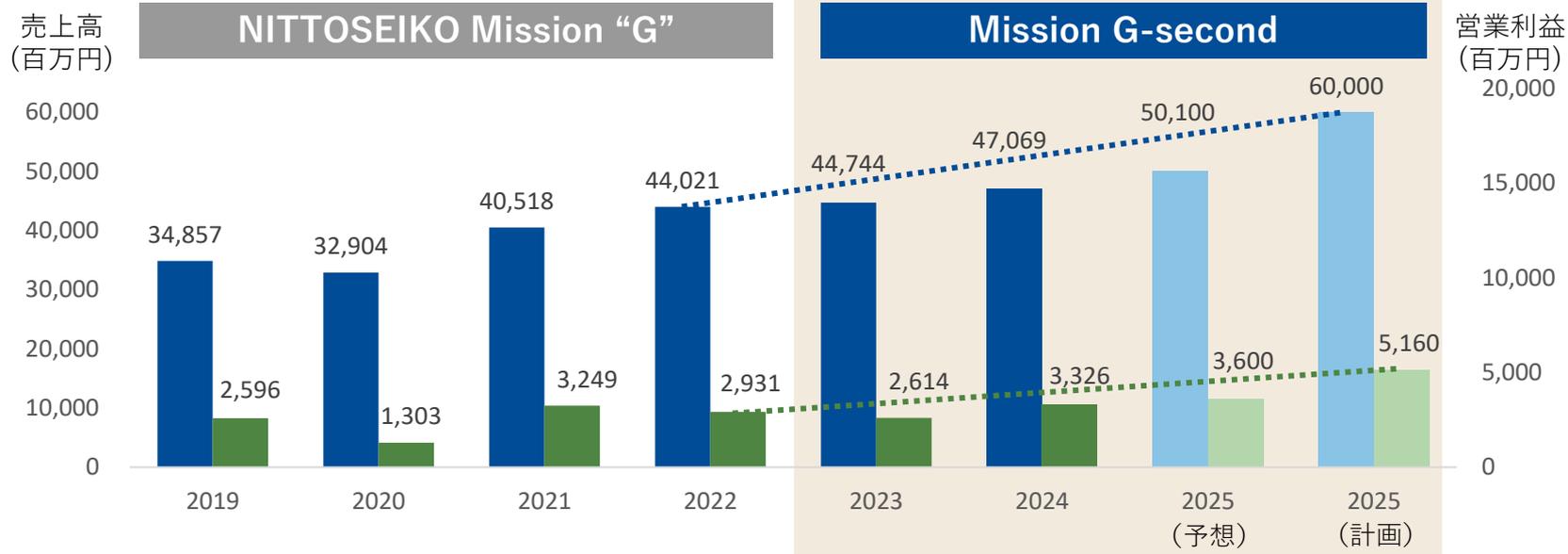
概況

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、2023年の国内特許取得に続き、2024年7月に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。現在は一貫製造設備の整備、非臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進めるとともに、医療用製品販売に向けた許認可取得の準備など、上市に向けた取り組みを継続中。本年上期には製造体制構築へ向け医療機器の品質規格ISO13485を取得見込み。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制を構築中。

単位：百万円／%	FY2023	FY2024	前期比	
	通期	通期		
	金額	金額	金額	増減率
売上高	17	19	2	15.2
医療	17	19	2	15.2
その他	—	—	—	—
営業利益	△ 112	△ 120	△ 8	—

2. 中期経営計画の取り組み状況

中期経営計画 「Mission G-second」 進捗状況



Growth #1 事業拡大戦略

	2024年実績	2025年目標
売上高	470億円	600億円
営業利益	33.2億円	51.6億円

Growth #2 環境戦略

	2024年実績	2025年目標
CO ₂ 排出量 (2019年実績比)	16.4%削減	12%削減
廃棄量 (2019年実績比)	30.0%削減	5%削減

Growth #3 人財戦略

	2024年実績	2025年目標
労働生産性 (2022年実績比)	3.8%UP	24%UP
エンゲージメント	3.6P	3.8P以上

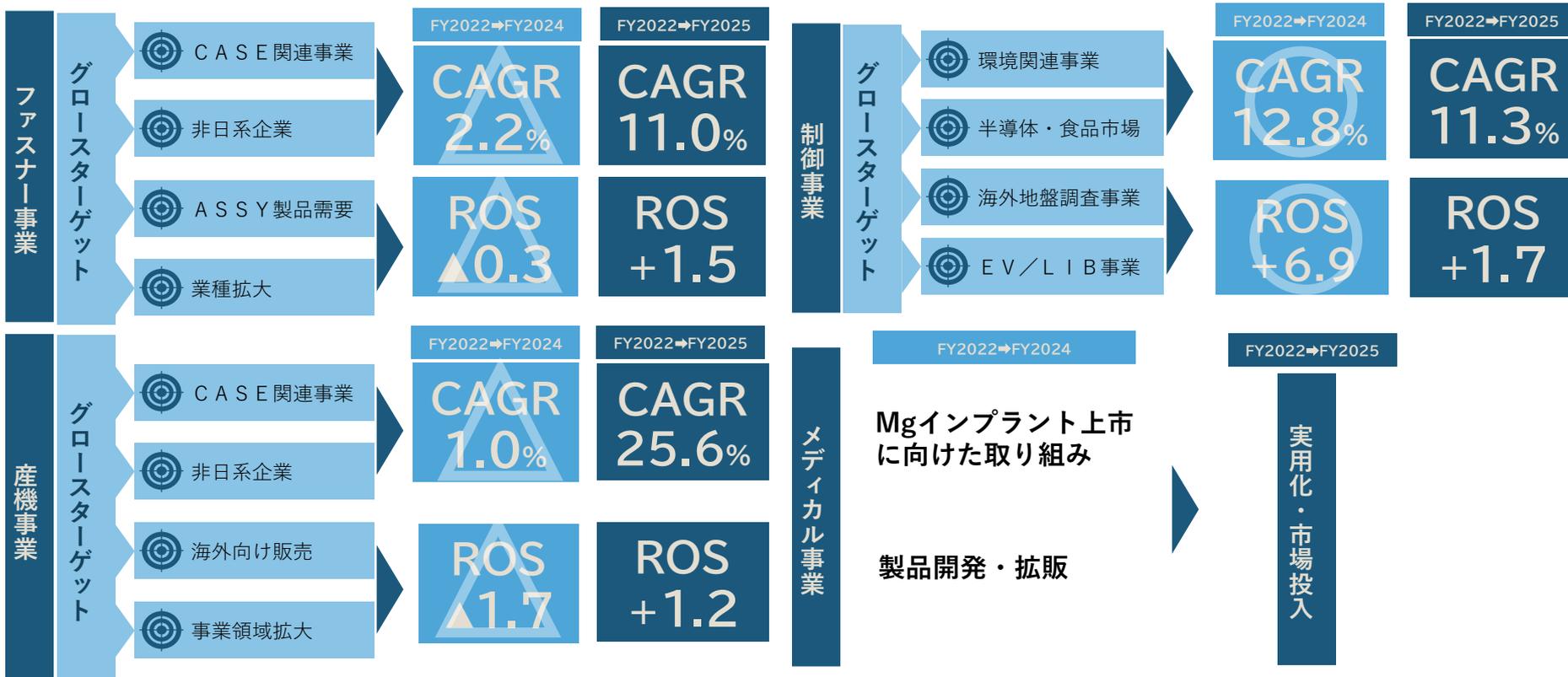
Growth #4 財務戦略

	2024年実績	2025年目標
ROIC	6.7%	8%以上
ROE	6.6%	9%以上

GROWTH#1 事業拡大戦略

(百万円)

	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2025年予想	2025年計画
売上高	44,021	44,744	47,069	50,100	60,000
営業利益	2,931	2,614	3,326	3,600	5,160



*CAGR：2022年から年平均の売上高成長率／ROS：営業利益率の2022年比

グロースターゲット別実績

単位：百万円

CASE関連事業

2024年計画比 **110.7%** ○



CASE関連・軽量化需要でオリジナル製品のねじや精密プレス製品が好調。

樹脂コーティングゆるみ止めねじ「NCグリッパ」
樹脂の速乾性向上＋優れた耐振・耐熱・耐薬品性
【自動車・精密機器】

11月発売



2025年予測と取り組み

電動化に伴い軽量化、薄板化のニーズが高まり関連製品の引合が増加。



クリンチングスタッドボルト「JOISTUD-FH」
頭部埋め込み省スペース＋特殊形状のゆるみ止め
【自動車・精密機器】

12月発売



非日系企業

2024年計画比 **66.8%** △



上期は好調だった韓国非日系企業への電子機器、自動車向け製品が停滞。また、北米の住宅着工数低迷により建築用ねじが伸び悩む。

欧州、北米の非日系企業・新市場へも拡販活動中で新規引き合い増加。



ASSY品

2024年計画比 **64.7%** △



自動車向けにプレス製品と締結部品の複合部品による提案を展開。



伸和精工プレス品

東洋圧造ボルト

電動車向けで複雑化する部品ニーズが継続。グループシナジーを活かした複合部品を引き続き展開。



業種拡大

2024年計画比 **73.5%** △



住宅・建築業界：業界の人材不足・資材高騰により着工が伸び悩む。

フランジ型ゆるみ止めボルト「カップボルト」
ばね座金・平座金が不要に
【住宅・建築】

2月発売



建設業界の人手不足と資材高騰でやや停滞。2月に販売開始した「カップボルト」を拡販中。

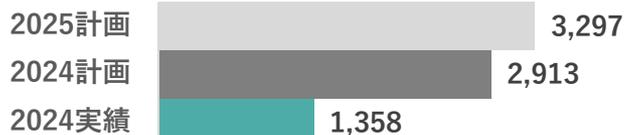


グロースターゲット別実績

単位：百万円

CASE関連事業

2024年計画比 **46.6%** ▲



国内では電動車向けやECU関連が好調だったが、米国・タイで設備投資意欲が停滞。

8月発売
NXドライバT3シリーズ低トルクモデル
 高精度・高機能シリーズに低トルクモデルを追加し小径サイズに対応。
 【ECU基板、家電、精密機器】

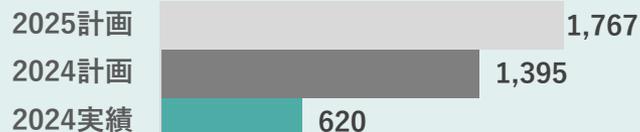


2025年予測と取り組み

車の電動化に加え、ADAS標準搭載が進みインバータ、ECU関連の設備投資が増加傾向。バッテリー拡販プロジェクトを継続実施。

非日系企業

2024年計画比 **44.4%** ▲



中国とタイの現地法人が共同開発したアジアモデルねじ締め機のデモ機を中国、インドの展示会へ出展。

中国、タイ、韓国においてEV関連を中心にローカルユーザを開拓中。アメリカは展示会によるローカルユーザからの引き合い増。

海外向け販売

2024年計画比 **51.8%** ▲



欧州市場を照準に基盤となるCEマーキング、RoHSなどへの取組みを推進中。

2月発売
協働ロボット用ねじ締めユニット PD400シリーズ
 一部機種でCEマーキング対応



各国で受注は増加傾向にあるものの韓国の大型案件は設備投資計画に遅れあり。欧州、インド拡販に向けた戦略製品の販売強化を予定。

事業領域拡大

2024年計画比 **71.1%** ▲



汎用エンジン用設備、工業用ポンプ用設備、家具組立用設備など既存業界以外の販売があったが計画には満たず。ねじ締めトライアルキャンペーン、新製品キャンペーンを実施。

脱炭素需要を受け、ロボットのサイズダウン、消費電力の削減などCO₂削減に貢献する新製品の投入、販売を強化。

グロースターゲット別実績

単位：百万円

環境関連事業

2024年計画比 **133.0%** ○



欧州のPFAS規制による有機フッ素の分析需要に新製品が対応。4月と11月の展示会でマイクロバブル生成装置をPR。

自動試料燃焼装置 **3月発売**

「AQF-5000H」
固体・液体の燃焼分解からハロゲンと硫黄の分析を全自動で行う装置の新モデル



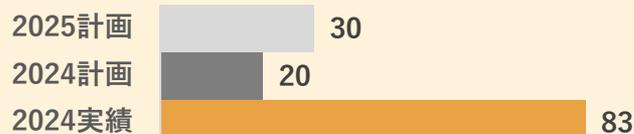
2025年予測と取り組み

欧米を中心にPFAS分析需要は引き続き好調。国内も同需要の増加を見込む。
4月にけいはんな万博にて有機溶剤リサイクル装置のデモ機を展示予定。



半導体・食品市場

2024年計画比 **415.0%** ○



特に食品業界向けは前期比58百万円増。従来品より小流量域の計測範囲を拡大した新製品の開発も継続中。



半導体が活況な国内一部エリア（熊本等）で需要増の見込み。水分測定装置、抵抗率計、質量・電磁・超音波流量計を拡販強化。

海外地盤調査事業

2024年計画比 **20.4%** △



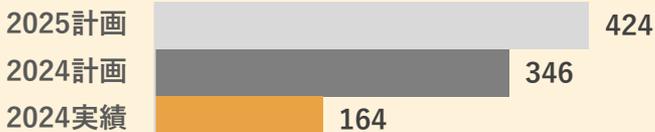
大学研究機関との連携や販売活動が実を結び、タイ政府機関より1台目の受注を獲得し、下期に売上計上。



タイ政府機関の受注に続き横展開による需要増を見込む。政府機関でのジオカルテIVのニーズの発掘を継続。

EV/LIB事業

2024年計画比 **47.4%** △



複数の展示会で測定装置をPR。電池材料など抵抗率計の需要が増加したものの、検査選別装置MISTOLシリーズはEV/LIB向けの受注には至らず。



世界的に需要が旺盛な時期を過ぎ調整局面にあるものの、国内は引き続き堅調の見込み。

世界初！

医療用生体内溶解性 高純度マグネシウム



日本国特許取得
(2023年6月)

米国特許取得
(2024年7月)

New

骨折治療用インプラント

[ピン、スクリュー、プレート(試作品)]



特徴

- 99.95%以上の高純度マグネシウム。人間の必須元素で高い安全性
- 生体内で一定期間経過後に溶解をはじめ、その後ゆるやかに長い時間をかけて完全溶解

進捗 状況



開発の状況

- 大学病院で非臨床試験を開始
- 各学会大会での研究発表
2022.10 共同研究先 京都府立医科大学 岡佳伸先生
2022.11 メディカル新規事業部 所属員
- 生物学的安全性試験・非臨床試験を進行中
- 現在、これら試験に適合するインプラントの選定中
- QMS、生命倫理、情報公開などシステム整備



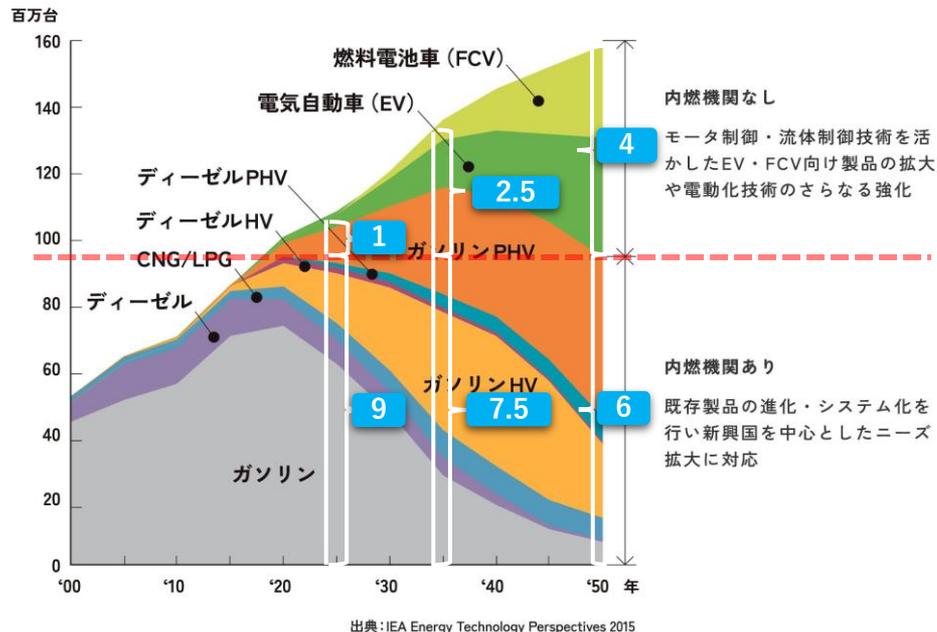
量産体制の構築

- 量産用の設備投資
- 品質、性能の安定性確認

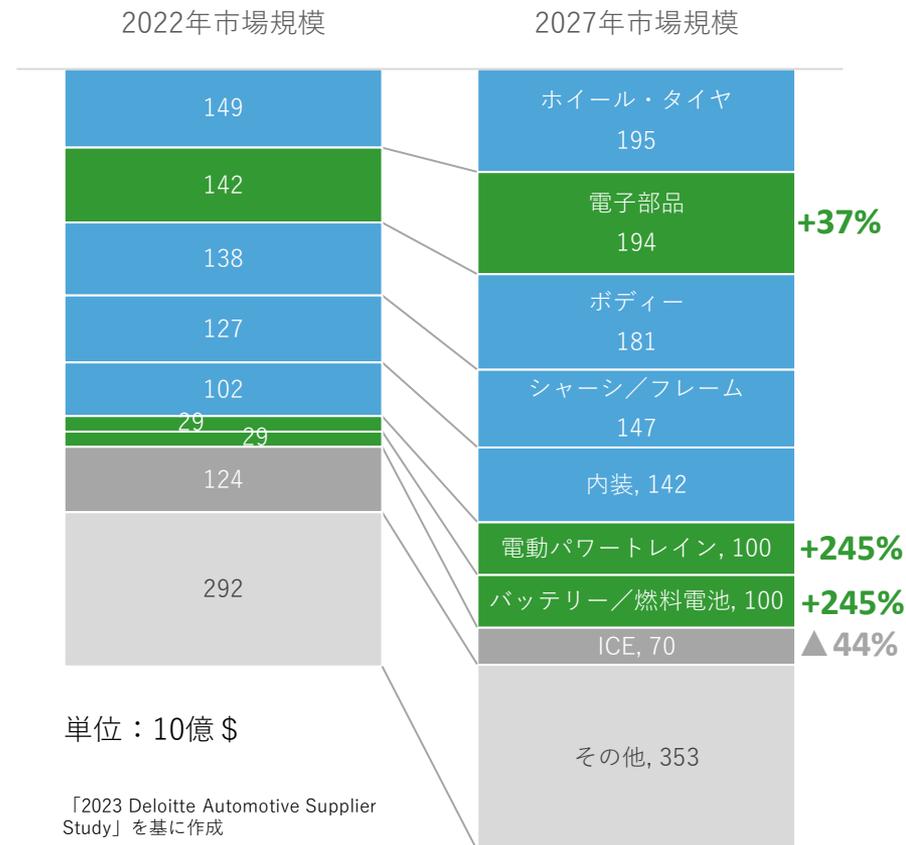
特許取得の状況

- 海外主要6ヶ国に申請中

世界のパワートレイン別の新車販売将来予測



自動車部品の市場規模の予測



今後の自動車業界向け戦略

- 総数は2050年まで右肩上がり
 - ガソリン車は2035年まで増加し以降は減少
- ▼
- EVシフト + 既存顧客での安定売上
 - 新興国におけるEV車・FCV車の普及を見据え海外比率を高める

CASE関連

需要増加と技術進化により**継続的に成長**

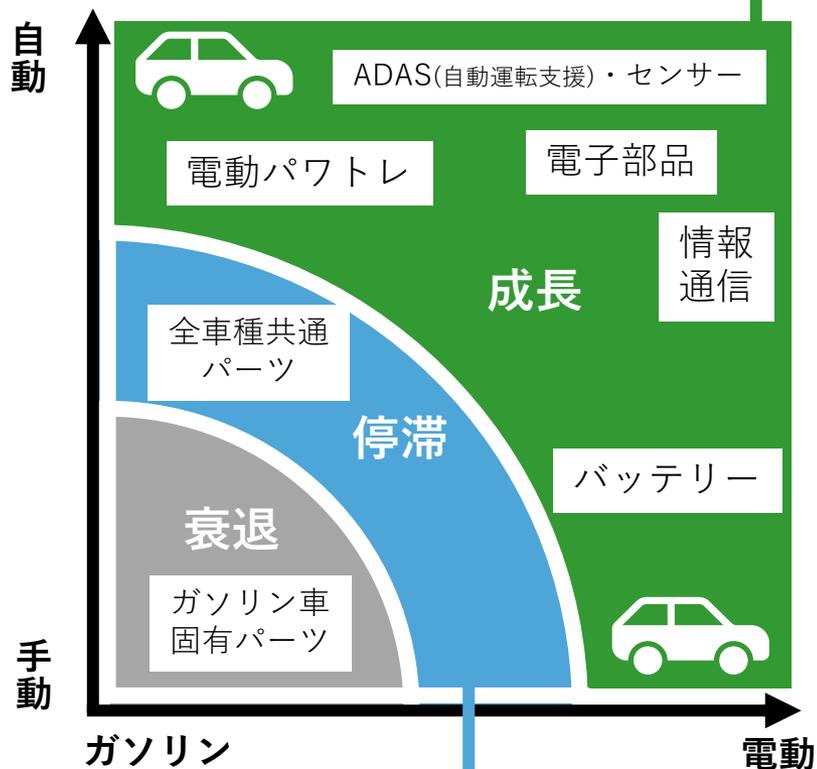
非CASE・汎用品

CASE進展による**需要変動はほぼなく停滞**。汎用品は**一定の市場規模**

ガソリン車関連

電動化に伴い**需要減少**。一部汎用品はコモディティ化により**衰退**

今後の自動車部品ニーズの変化



自動化、電動化関連の成長領域を強化し
オリジナル製品等の高付加価値品を販売

■ 電子基板に適した製品

締結粉飛散防止ねじ
「CPグリップ」



精密ねじ



推力制御機能付きねじ締めユニット
→精密で高額な部品への組付けミス防止のため、より高品質な締結が可能



FM513VZ

■ トレーサビリティ確立

NXドライバ (SD600Tシリーズ)

→部品の精密化・複雑化に伴い、品質や信頼性の担保のためトレーサビリティが求められる

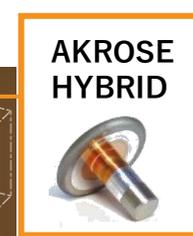


■ バッテリーに適した製品

EV車載用バッテリー



AKROSE
HYBRID



■ 防水製品

アスファ®WP
精密部品の水冷で
ニーズ増



外装内装などの市場規模を持つ全車種共通部品は
電動化に伴う軽量化需要に対応

■ 軽量化に適した製品

ゆるみ止めねじ
「ギザタイト」



座金組み込みねじ
「アスファ」



セルフクレンジング
スタッドボルト
「JOISTUD」

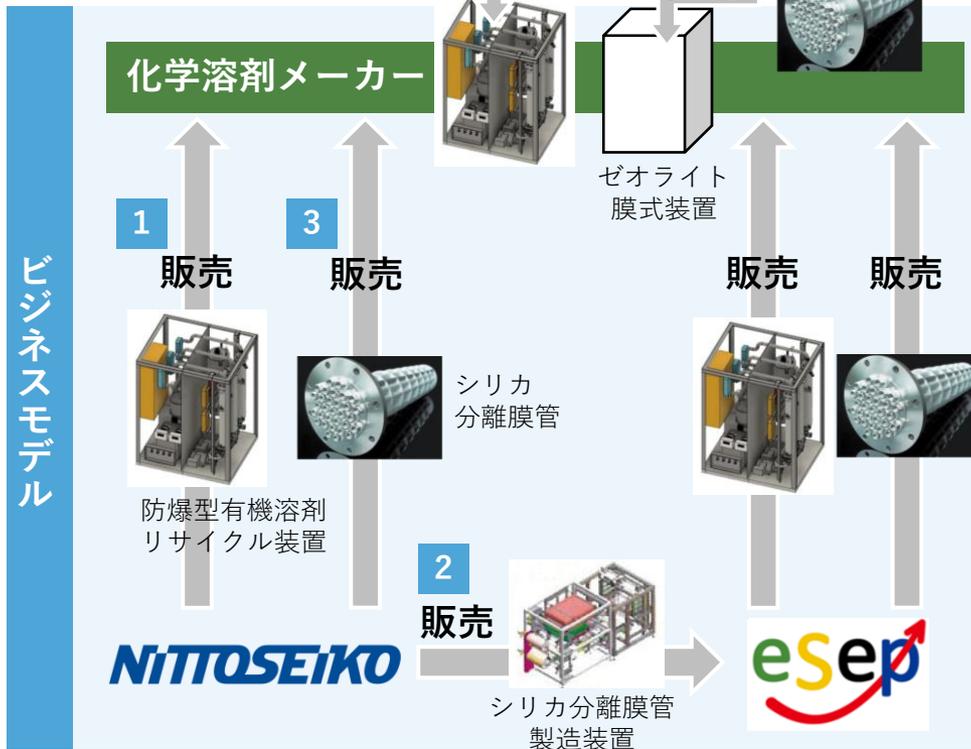


カーボン・ニュートラル社会の実現に向けた事業化

- ・ プラント装置全体の製作
- ・ 流体配管・防爆技術
- ・ 大量生産可能な体制



- ・ 分離膜技術
- ・ フィルター製造技術



1 化学溶剤メーカーへの防爆型有機溶剤リサイクル装置の販売
 蒸留式・吸着式→膜式への置換によるCO₂削減・コスト軽減効果をPR。

2 イーセップ社へのシリカ分離膜管製造装置の販売
 当社の生産技術を活かした製造装置の製造。

3 化学溶剤メーカーへのシリカ分離膜管の販売
 シリカ分離膜管はリサイクル装置に組み込む消耗品であり、コンスタントな売上が見込める。また、既存のゼオライト膜式リサイクル装置にも組み込み可。ゼオライト膜→シリカ膜への置換による機能性アップをPR。

有機溶剤リサイクル装置の市場規模：約25億円を見込む

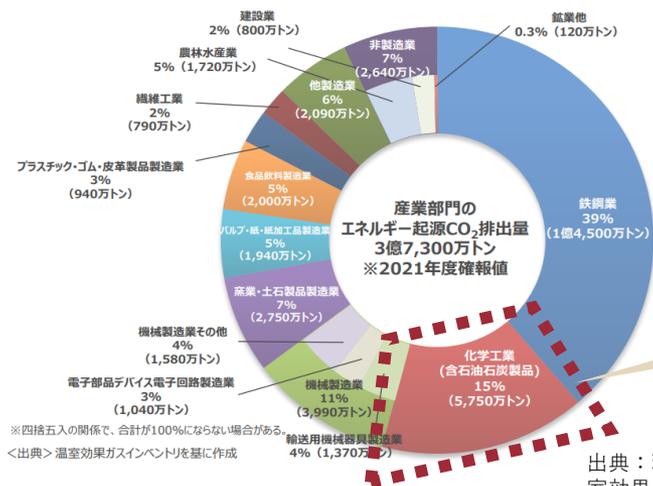


化学産業の蒸留工程におけるCO₂排出量50%削減を目指す

本事業の背景

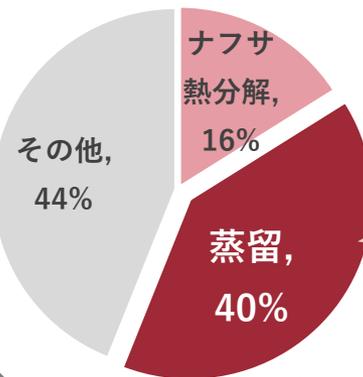
化学産業におけるCO₂排出量の課題に着目

エネルギー起源CO₂排出量の業種別内訳



化学工業分野の割合は15%を占める

化学産業におけるCO₂排出量内訳



特に蒸留工程での排出量が多い

出典：経済産業省化学課調べ

出典：環境省「2021年度（令和3年度）温室効果ガス排出量（確報値）について」

膜式の優位性

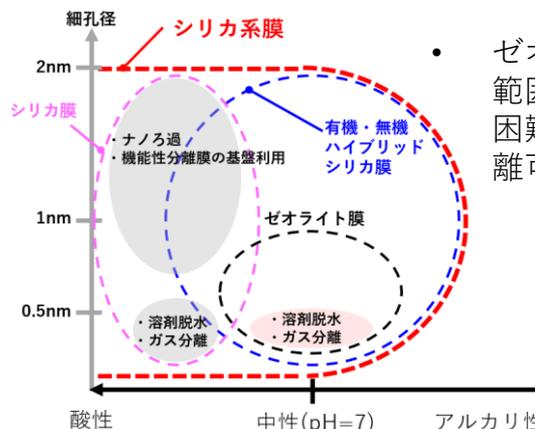
CO₂削減・コスト軽減

- リサイクル回収量が多い
- 廃液割合低減により従来のリサイクル工程(燃焼・蒸留)が不要になりエネルギー消費減

	蒸留式	吸着式	膜式
設備規模	大型	中型、複数	小型
作業性	連続処理	バッチ処理	連続処理
エネルギー消費	大量消費	中程度	最も省エネ
トータルコスト	大型	中	小型
実績	50%	30%	Laboから実用化
デメリット	熱に弱い物質NG	吸着剤の能力低下	膜コスト
総合評価	×	△	○

シリカ膜の優位性

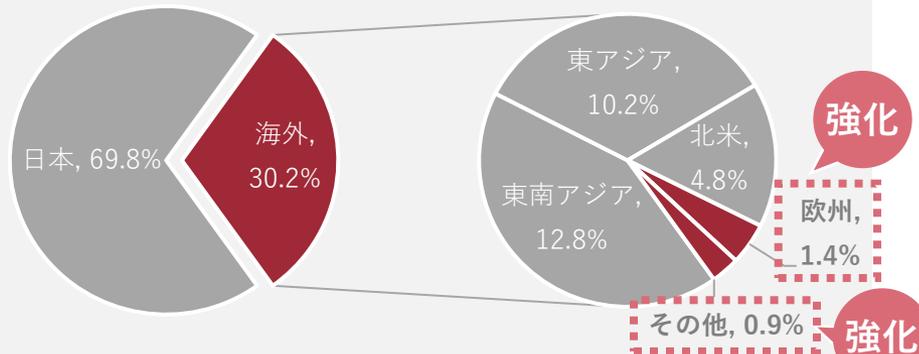
機能性アップ



- ゼオライト膜より適応範囲が広く、従来適応困難であった範囲も分離可能に

欧州、インド展開のため拠点拡充

売上高国内外比率 (2024年)

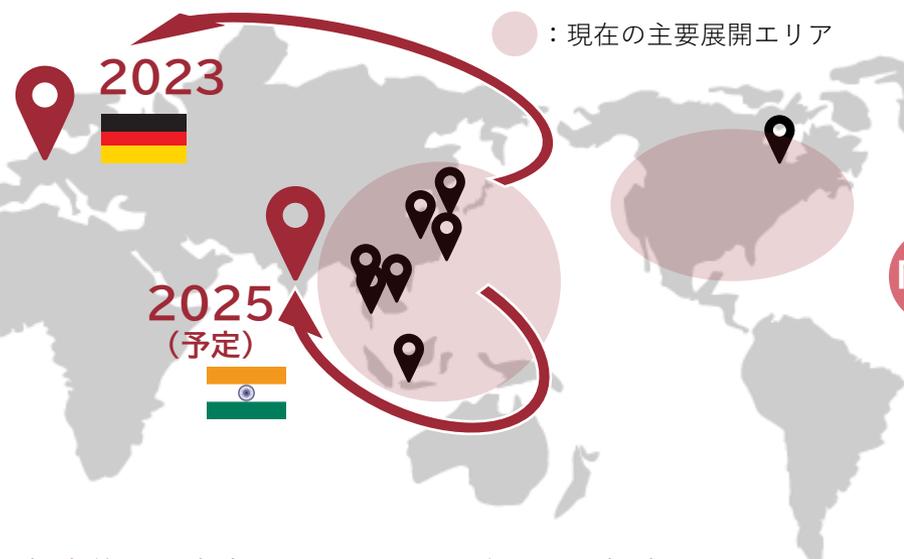


現在の状況

海外比率が30%と低く、展開範囲も東アジア、東南アジア、北米と限定的

今後の方針

現在販売比率の低い**欧州、インド**の拠点を拡充。今後さらに海外比率を高める



将来的には中東からアフリカに向けての拠点の足がかりに

2023 ドイツに販売会社を設立

現在は環境、化学・薬品分野を中心に分析機器の販売を展開。
今後、自動車分野を中心にファスナー・産機事業も拡大予定

New

2025 インド部品メーカー子会社化(予定)

人口世界1位、GDP世界5位 (2023年)

世界最大の二輪・三輪市場 ▶ **四輪市場の伸び**

日本の大手自動車メーカーが ▶ **EV市場の拡大**
インドのEV生産強化を発表

CO₂排出量削減

2020年～2024年

- ソーラーパネルの設置
- LED照明への移行
- 再エネ電力への切り替え
- 生産設備の稼働効率化対策
- その他節電対策（機械のエアリーク対策、設備の断熱・遮熱、空調効率向上設備など）



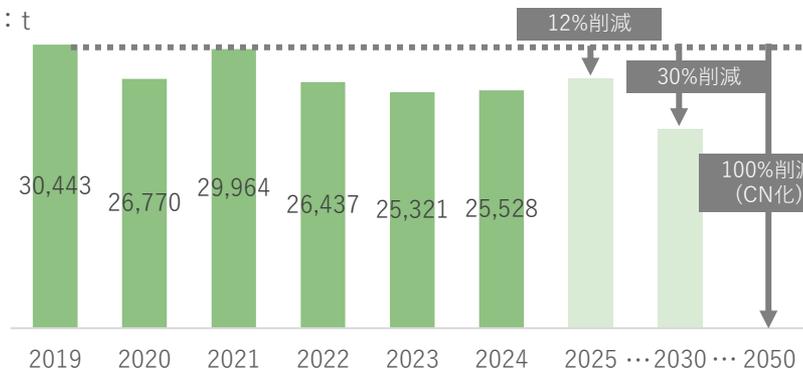
ソーラーパネル
(タイ現地法人)



ソーラーパネル
(綾部 産機工場)
→グリーンエネルギー
100%を達成

2024年実績
16.4%削減
(2019年実績比)

単位：t



※2019～2021年の実績には2022年以降にM&Aで加わった子会社も含まれています。

2030年までの取り組み計画

- ソーラーパネルの設置・稼働
2025年（予定） 綾部 ファスナー工場
- 工場新設及びレイアウト変更による
電力、運送費の削減

2030年度目標

30%削減
(2019年実績比)

綾部ファスナー工場
再編予定図



廃棄量削減（原単位）

2024年実績
30.0%減
2025年目標
5%減
(2019年実績比)

廃アルカリ、めっき汚泥の減量化、廃プラスチック類の固形燃料化・減容化を推進中。

お客さまへのESG支援

冷間圧造 部品

- タップタイト製品のラインナップ拡大
- 異種金属接合の多様化
- 切削加工から冷間圧造への転換
- 軽量化部品締結の対応
- 新しい締結技術の開発

産業機械

- 製品の軽量化
- 製品の省電力化
- 自動化の推進
- 環境対応製品の販売
- 製品精度の向上

医療機器

- 生体内溶解性インプラントの実用化

労働生産性

2024年実績

3.8%UP

(2022年実績比)

エンゲージメントスコア

2024年実績

3.6P

資本コスト経営力・グループ経営の管理力強化

フィードバック研修

部下へのフィードバックによる育成方法を学ぶとともに、社内指標「NPI」*と個人の目標管理ツール「チャレンジシート」の連動性を検証するための管理職研修を実施。

*NPI：「NITTOSEIKO Progress Indicator」の略で、各部門のアクションプランおよびそれに基づく取り組みを体系化し、進捗率を数値化、可視化したもの。

VALUE UP2024

従業員一人ひとりが「稼ぎ力」を意識し、付加価値向上につなげるための取り組み。

部課で掲げた取り組みリストから課員が自身の取り組みを選択し実行、毎月成果を報告。

社長座談会

中期経営計画達成へ向け、社長と従業員（特に若年層～指導職層）の理念共有、対話の機会を設定。

2024年度の参加メンバー

新任係長、新任班長、新任主任、支店、事業本部（計10回開催）



働きやすさ・人材活用に関する外部評価

健康経営優良法人2024（ホワイト500）

生活習慣病リスク改善を目的とした7つの取り組み「Nicotto7」などが評価され認定。



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

日東精工
(4年連続)



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

日東公進
(3年連続)



2024
健康経営優良法人
Health and productivity

- ・ニッセイ（2年連続）
- ・ファイン（2年連続）
- ・東陽精工（初）

スポーツエールカンパニー2025

部活動の支援、体力づくり強化月間の取り組み、市民駅伝大会への参加などが評価され、5年連続認定で“ブロンズ”を取得。（日東公進も4年連続で認定）



日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編 3星

健康経営や人財育成などの取り組みが「人材活用力」として評価され、初の3星に認定。



GROWTH#4 財務戦略

2022年実績		▶	2024年実績		▶	2025年目標	
ROIC	5.7%		ROIC	6.7%		ROIC	8%以上
ROE	6.1%		ROE	6.6%		ROE	9%以上

非事業資産・負債の圧縮と成長投資

有利子負債 2023年末 **19.3億円** ▶ 2024年末 **15.6億円**

CMSを活用し前期比3.7億円圧縮。金利上昇局面にあるものの、支払利息は前期比4百万円増に抑制。

固定資産圧縮 2023年末比 ▲**3.9億円**

- 有価証券、不動産の売却
- 賃貸工場の売却

資本コストを考慮し効果の高い投資へ

有機溶剤リサイクル事業共同開発への出資

インド部品メーカーM&A

事業拡大における投資対効果の分析

固定資産回転率の向上

収益向上を目的とする設備投資については、当社グループのWACC 6.7%以上の投資効果であるかのチェック体制を強化。

株主との対話の拡充

グローバルサイト開設

海外投資家への情報開示を強化。



工場見学会の開催

本社所在地の京都府綾部市にて機関投資家向け、当社OB・OG向けに開催。



3. 2025年12月期予想・計画

単位：百万円／％	FY2024		FY2025（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	47,069	100.0	50,100	100.0	3,030	6.4
営業利益	3,326	7.1	3,600	7.2	273	8.2
経常利益	3,573	7.6	3,700	7.4	126	3.5
親会社株主に帰属する当期純利益	2,199	4.7	2,300	4.6	100	4.6
一株当たり当期純利益（円）	60.18		63.46			

予想のポイント

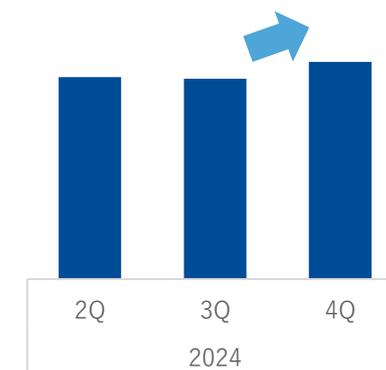
売上高

- 今期は、主力の自動車向けの国内販売は好調であるものの、海外市場は引き続き低調な状況が続く見込み。国内で得意分野である自動車のCASE関連向けファスナー製品がさらに伸長することに加え、精密部品の受注が高水準で推移しており、全体の売上は増加見込み。また、人手不足を解消する自動組立装置や自動検査装置の需要がさらに高まる予想。さらに、分析機器や有機溶剤リサイクル装置などの環境関連事業においても業績貢献が見込まれ、グループ全体の売上が押し上げられると予測。

営業利益

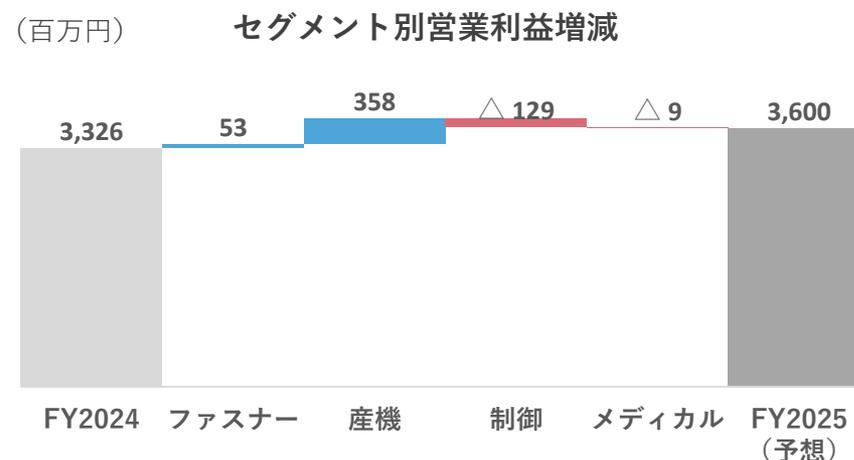
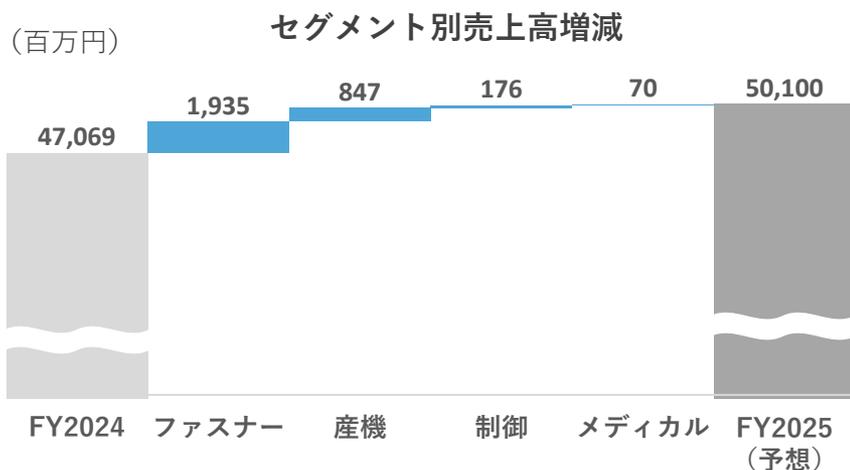
- 全事業共に価格転嫁がさらに進み、利益環境は好調を維持するものと予想。産機事業のねじ締め標準機やファスナーの高付加価値製品の販売比率を高め、前期の反動を受ける制御事業を全体で補完。材料見直しや工場再編による工場間輸送費の削減など変動費削減に向けた取り組みにより、その効果が徐々に表れてくると考えられる。これらの要素により、収益向上が推進される見通し。

注残の推移



セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

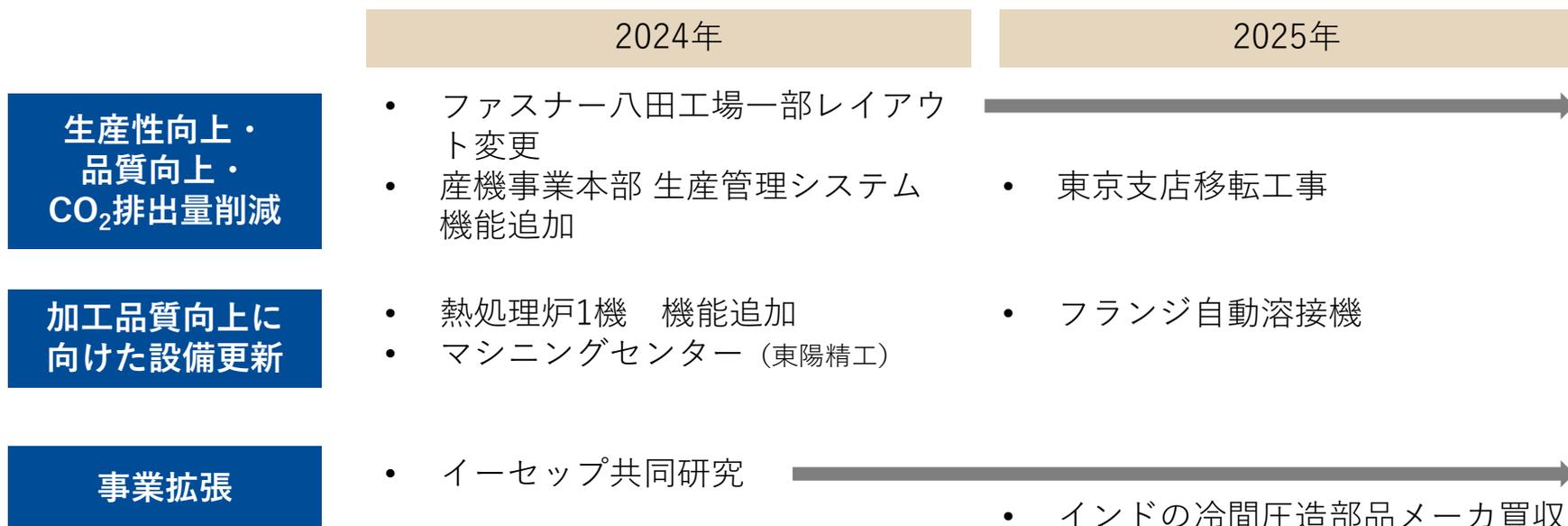
単位：百万円／％		FY2024	FY2025（予想）	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	33,664	35,600	1,935	5.8
	営業利益	1,636	1,690	53	3.2
	利益率	4.9	4.7		
産機事業	売上高	6,642	7,490	847	12.8
	営業利益	1,141	1,500	358	31.4
	利益率	17.2	20.0		
制御事業	売上高	6,743	6,920	176	2.6
	営業利益	669	540	△ 129	△ 19.3
	利益率	9.9	7.8		
メディカル事業	売上高	19	90	70	355.4
	営業利益	△ 120	△ 130	△ 9	—
	利益率	△ 612.3	△ 144.4		



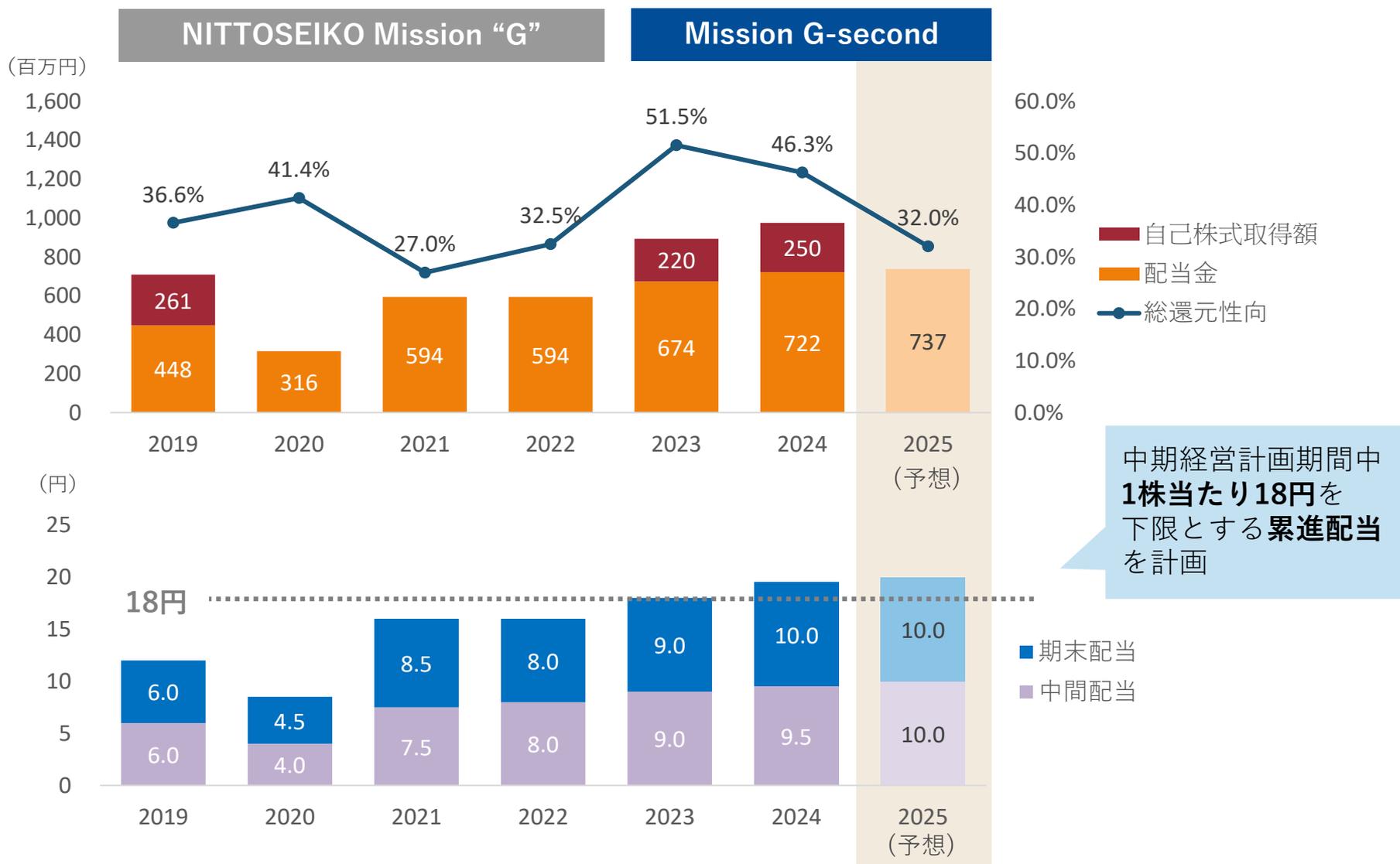
セグメント別市場動向と取り組み状況

事業	主な市場動向		取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	日系メーカーが各種電動車強化のため日本国内にバッテリー工場を新設予定。型式認証問題に起因する生産停止の余波はあるが、車両の軽量化、薄板化ニーズが続く。	自動車向けに「AKROSE」、「JOI STUD」シリーズ、住宅・建築向けに座金不要の新製品「カップボルト」の拡販を進める。また、工場再編による工場間輸送の削減、電力量削減などの製造コスト低減に取り組み、利益率改善を図る。	
	住宅・建築	国内の需要はあるものの、業界の深刻な人材不足・資材高騰により計画遅延などが発生。		
	雑貨	ゲーム機新機種向けの受注増を見込む。		
産機	自動車	EV販売が減速しているもののHV販売の増加が続く見通し。また、ADASの標準装備が進みインバータ、先進安全システムECUなどの搭載車種拡大が見込まれECU関連の設備案件は増加傾向。	自動車においてはバッテリー拡販チームによる拡販を推進中。電力計の特殊機案件の受注に向け、生産能力拡大のための新たな協力工場の開拓も検討中。 中国・タイ現地法人で共同開発した低コスト型のアジアモデルを現地ユーザ、非日系ユーザへ拡販予定。本モデルは現地調達・生産による納期短縮メリットもアピール。	
	電機・電子	中国リスクと円安の影響により国内生産回帰。半導体業界の回復により得意とする半導体検査装置の受注が回復基調。		
	エネルギー関連	新メータの生産増強により各社で設備導入が進む見通し。		
制御	化学・薬品	LIB向けは中国を含む一部地域で需要が減速も、国内など次世代電池材料向け需要は継続の見込み。	電子材料やPFAS関連需要向けに自動試料燃焼装置の拡販とともに、安定供給体制を整える。人手不足を背景にした検査機関連の引き合い増に対応予定。 有機溶剤リサイクル事業は、けいはんな万博でデモ機出展を予定。	
	エネルギー関連	脱炭素による需要減の一方、SAF等再生燃料、合成燃料などの需要を見込む。		
	環境	欧州、米国でPFASの法規制により分析装置の需要が続く見込み。他地域や日本での需要増も期待。		
メディカル	開発計画	2024年7月の米国を皮切りに「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。本製品の製造設備の整備並びに非臨床試験に取り組むとともに、臨床試験の準備にも取り組み、医療機器製品の拡販や新製品の開発に努める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		

単位：百万円	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025 (予想)
	金額	金額	金額	金額	金額
設備投資	1,171	1,122	1,299	1,095	2,180
事業拡張	0	2,133	-	100	1,500
研究開発費	715	764	737	795	1,140
合計	1,886	4,019	2,036	1,990	4,820
(減価償却費)	1,294	1,421	1,489	1,402	1,570



株主に対する利益還元 = 業績に見合った安定的な配当の継続



4. 參考資料

課題

対応

目標

①営業利益率

製品コスト高、市場競争により、営業利益率が低調となっている

- ・ 成長市場への戦略的投資
- ・ 経営効率の向上
- ・ 新たなビジネスへの展開

2019年以降の目標
営業利益率8.6%の達成

②資本収益性

資本収益性が資本コスト（WACC 6.7%）を下回り、市場の期待値と乖離が生じている

- ・ 経営資源の効率的な活用
- ・ 投資効果の追求
- ・ 資本コストの引き下げ

ROE 9 %
ROIC 8 %
の早期実現

③資本市場との対話

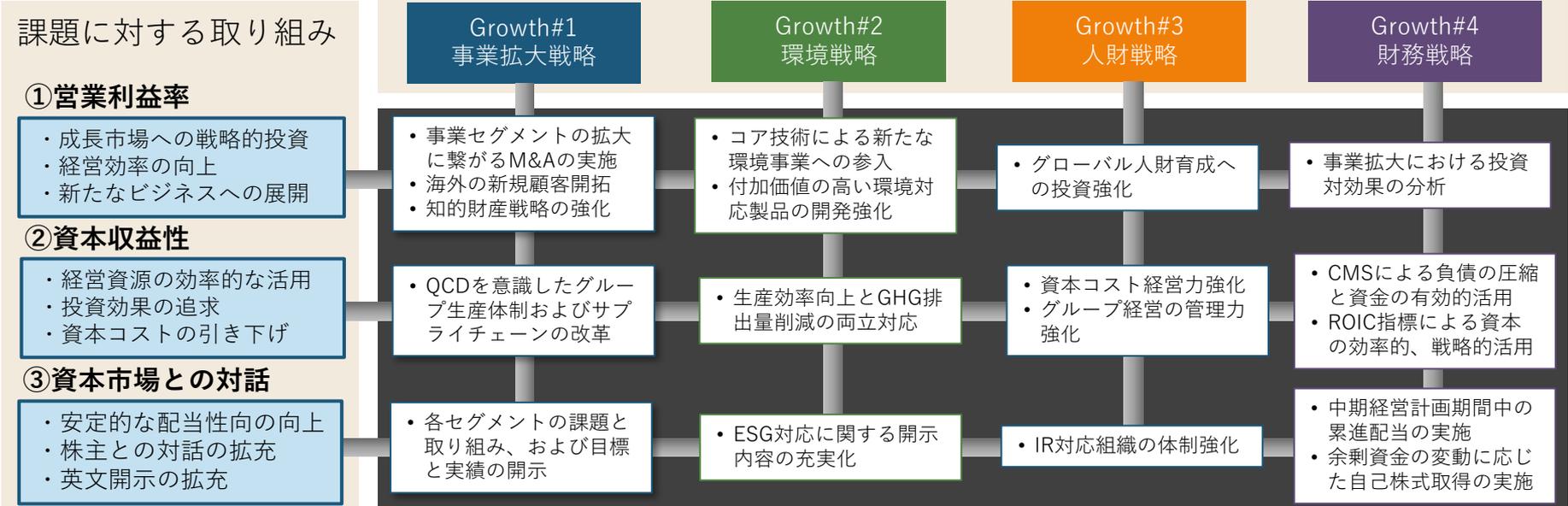
企業価値をさらに向上するため、資本市場との対話を拡充、深化する必要がある

- ・ 安定的な配当性向の向上
- ・ 株主との対話の拡充
- ・ 英文開示の拡充

PBR1.0倍以上の達成と維持

中期経営計画 Mission G-secondの4つの重点戦略において
3つの課題別の取り組みを実行

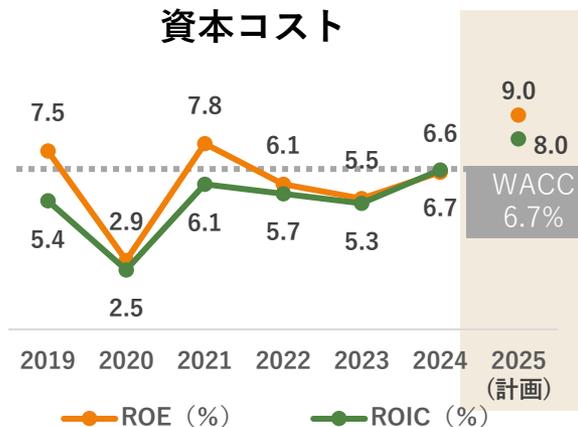
中期経営計画 Mission G-secondの4つの重点戦略



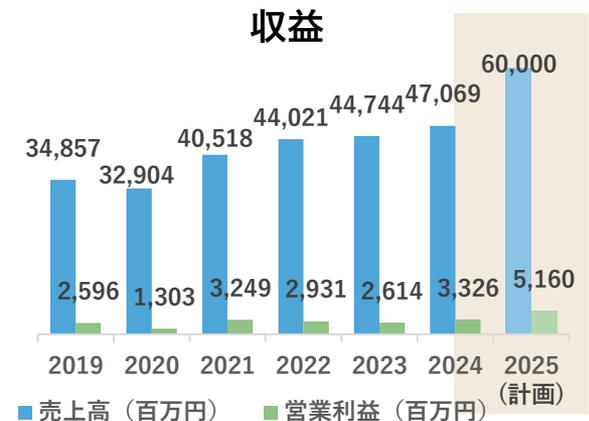
市場の評価



資本コスト



収益

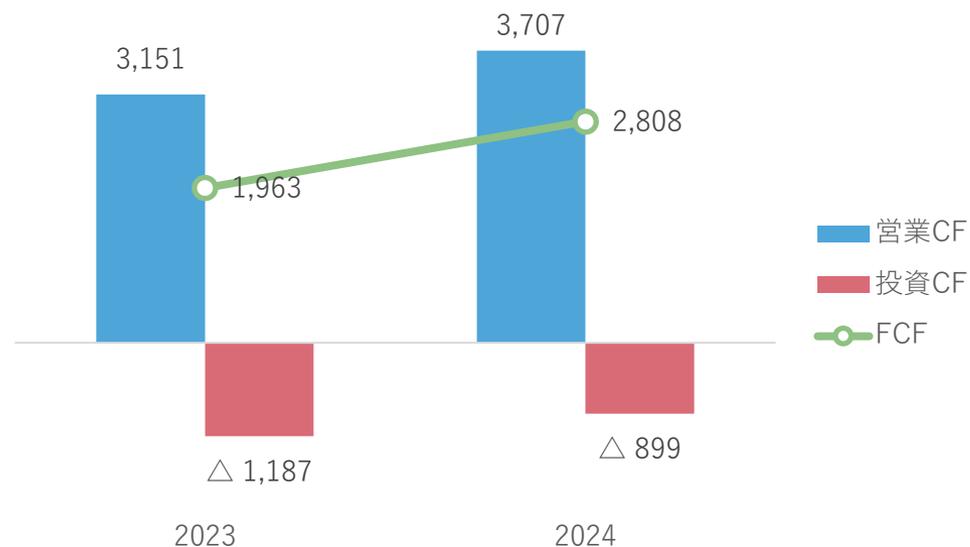


連結貸借対照表

単位：百万円／％	FY2023/4Q		FY2024/4Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	33,822	63.4	36,504	65.7	2,681	7.9
現金及び預金	8,849	16.6	10,580	19.0	1,730	19.6
受取手形・電子記録債権/売掛金	12,794	24.0	13,318	24.0	523	4.1
棚卸資産	11,023	20.7	10,992	19.8	△ 30	△ 0.3
固定資産合計	19,521	36.6	19,099	34.3	△ 421	△ 2.2
有形固定資産	14,129	26.5	14,003	25.2	△ 126	△ 0.9
無形固定資産	999	1.9	864	1.6	△ 135	△ 13.5
投資その他の資産	4,391	8.2	4,231	7.6	△ 159	△ 3.6
資産合計	53,344	100.0	55,604	100.0	2,260	4.2
負債の部						
流動負債合計	12,901	24.2	13,200	23.7	298	2.3
支払手形・電子記録債務/買掛金	8,615	16.2	8,835	15.9	219	2.5
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	1,574	3.0	1,325	2.4	△ 249	△ 15.8
固定負債合計	4,040	7.6	3,812	6.9	△ 227	△ 5.6
負債合計	16,941	31.8	17,012	30.6	71	0.4
純資産の部						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.3	－	－
資本・利益剰余金	29,400	55.1	30,793	55.4	1,393	4.7
自己株式	△ 1,562	△ 2.9	△ 1,778	△ 3.1	△ 216	－
純資産合計	36,402	68.2	38,591	69.4	2,188	6.0

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円／％	FY2023	FY2024		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	3,151	3,707	556	17.7
投資活動によるCF ※②	△ 1,187	△ 899	288	-
(フリーCF) ※①+②	1,963	2,808	845	43.0
財務活動によるCF	△ 2,074	△ 1,426	647	-
現金及び現金同等物の増減額	△ 278	1,577	1,856	-
現金及び現金同等物の期首残高	8,305	8,027	△ 278	△ 3.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,027	9,604	1,577	19.7



1 経営理念を継承し、事業を深掘りして企業価値を高めていきます。

2 ステークホルダーから認められ、求められる存在となり、サステナブルな社会の実現につなげていきます。

3 モノづくりソリューショングループとして、お客様のマテリアリティを共有し、課題解決に努めます。

4 これらすべての実行のために強固な財務体質を確保します。

IR お問い合わせ窓口

日東精工株式会社
経営戦略本部 経営企画室
電話：0773-42-3739
E-mail：ir@nittoseiko.com

 みんせつ **みんせつ 企業ページ**

<https://app.msetsu.com/stocks/5957>



SR One 企業ページ

<https://sharedresearch.jp/ja/companies/5957>

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

NITTOSEIKO